

## ◇ 博物館だより ◇

## セイコー時計資料館 (The SEIKO Institute of Horology)

〒131-0032 東京都墨田区東向島 3-9-7

<http://www.seiko.co.jp/nihongo/horology/>

TEL: 03-3610-6248(代表)

FAX: 03-3610-6256

### 1. 資料館概要

東京都墨田区はセイコーの工場「精工舎」発祥の地である。創業者服部金太郎は明治 14(1881)年服部時計店を起業して時計の仕入販売を始め、明治 25(1892)年、当時の本所区石原町に工場を設け、「精工舎」と名付けた。精巧な時計をつくる決意からと聞く。

翌年、同区柳島町(現墨田区太平)に移転、ここを本拠として掛時計を生産し、4年後には懐中時計「タイムキーパー」を、同 32年には国産初の目覚まし時計を製造販売した。本社は銀座 4丁目に置き、現在も本社と「和光」が営業している。

セイコーは昭和 56(1981)年に創業 100年を迎え、その記念として墨田区太平の工場精工舎内に「セイコー時計資料館」を設置した。その目的は日本の時計製造、産業としての発展過程を跡づけ、過去の資料を蒐集保管することを産業界の責任としたものであるが、しかし過去の事物を集積展示するのみでなく、世界の時計産業について、過去から未来を研究する機関を志向し、そこから INSTITUTE という名をつけたのであった。そのため時計を中心に各種情報資料と部品専用機も収集した。

セイコー時計資料館ではセイコー、国内他社・外国製時計 10000点、日本の伝統時計「和時計」250点、関係の錦絵 250点、書籍 15000点、雑誌 2000タイトル、社内報・協会報 800タイトル、内外各社時計カタログ類・パンフレット、ポスター、ビデオその他を保存して、見学・研究調査者への展示、閲覧に供している。所蔵の書籍・雑誌・文献(学会誌等)は当館の購入、グループ各社からの寄贈と、山口文庫からなる。

山口文庫とは、元一橋大学教授・図書館長山口隆二先生(1903-1993)が蒐集された時計関係と経済学の図書および辞書・地図等である。山口先生は世界時計産業史研究の第一人者で、海外にも知己が多かった。その研究を 1960年以來、月刊『国際時計通信』創刊後、主にこの誌上に発表され、時計史、時計産業史、広くは

時計業界に多大な寄与をされた。

当館の蔵書は和書 9000部、洋書 6000部、合計 15000部ある。その中で山口文庫は 5000部を超え、しかも今は入手し得ないスイス、フランス、イギリス、ドイツ等の稀覯本も多い。



図1 セイコー時計資料館入口  
(入口は隅田川に近い墨堤通りにある)

### 2. 資料館内紹介

セイコー時計資料館は、全部で4フロアからなる。

#### 1階:「時の進化」

時間と時刻測定の歴史を日時計、水時計、初期の機械時計、機械式から水晶式への進歩を現物サンプル・写真で物語る

#### 2階:「セイコーの足跡」

創業者、創業以来の本社ビル、製造工場の写真。創業以来の掛時計、置時計、目覚まし時計、懐中時計、腕時計の変遷、オリンピックを含む競技計時機器を展示

#### 3階:時計関係書庫、閲覧室、事務室

#### 4階:一般書籍・雑誌等の書庫、和時計保管室、会議室

## 3. 展示品紹介



図2 セイコー経線儀(マリンクロノメータ)  
昭和16年作。航海に不可欠な高精度の時計である。



図3 セイコークォーツ「アストロン」とIEEEの  
マイルストーン記念銘板—2004年11月—

1969年世界初の商品化に対してIEEE:INSTITUTE OF ELECTRICAL AND ELECTRONIC ENGINEERSから受賞した。IEEEマイルストーンは日本で第4号という名誉な賞である。



図4 セイコーの最高級ウオッチ「グランドセイコー」  
昭和39年に第1号発売、現在もメカ自動巻、アナログクォーツ、スプリングドライブを市販している。



図5 日本の時計「和時計」

明治6年の改暦まで、17世紀から19世紀に涉って製作され、日本の時刻を示した。



図6 資料館の時計関係図書を収納する3階の書庫  
および閲覧室

## [ご案内]

開館 10:00-12:00/13:00-16:00

休館日:日・月曜・祝祭日・年末年始 入館料:無料  
※ご予約をお願いします。地図、経路などの詳細については、ホームページをご覧ください。

(文責:久保田浩司)